平成 30 年度　市町村議会議員研修［２日間コース］

「自治体決算の基本と実践
～行政評価を活用した決算審査～」

平成 30 年４月 25 日(水）～４月 26 日（木）

ー 研 修 報 告 書 ー

■講　　師　　稲沢克祐（いなざわ　かつひろ）博士（経済学）
英国勅許公共財務会計士（ＣＰＦＡ）
関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科 教授

■研修場所　　全国市町村国際文化研修所（ＪＩＡＭ）
〒520－0106
滋賀県大津市唐崎二丁目 13 番１号

■主　　催　　公益財団法人　全国市町村研修財団
全国市町村国際文化研修所

■報 告 者　　吉　井　敏　恭、近　藤　文　博

講義内容

＜１日目＞　４月 25 日（水）

12：30～

開講オリエンテーション

松﨑学長の挨拶

・平成５年４月の開講から 25 周年を迎える

入寮オリエンテーション

13：00～14：10／14：25～15：35

【講義】　決算の意義と審査のポイント

第１部　自治体決算の基礎

序－１　変革の時代：ストックサイクル（ヒト、モノ、カネ）の変化

①　ひと：人口減少、高齢社会

②　もの：道路や橋、施設も老朽化する

③　おかね：これからの地方財政の課題

序－２　平成 26 年４・５月の動き

１　平成 26 年４月 22 日

総務省：公共施設等総合管理計画の策定を要請

２　平成 26 年４月 30 日

総務省：地方公会計改革における「統一的な基準」の提示

３　平成 26 年５月８日

日本創生会議：「提言　ストップ「人口急減社会」

－国民の「希望出生率」の実現、地方中枢拠点都市圏の創生－

２　自治体決算の基礎

１）予算と決算

⑴　決算の結果を見て、予算を審議する

⑵　予算項目は全て歳入歳出決算書に

⑶　決算から予算へ：連続性で考える

２）決算の流れ

①　会計管理者による決算調整
②　監査委員による審査・意見
③　議会による審査・認定
④　総務大臣に報告
⑤　住民に公表

３）決算書（法定）
①　歳入歳出決算書
②　歳入歳出決算事項別明細書
③　実質収支に関する調書
④　財産に関する調書

４）議会による決算認定
①　決算書（上記①から④）に加えて
⑤　決算審査意見書（監査委員作成）
⑥　主要な施策の成果報告書

３　法定書類についての用語基礎知識

１）歳入歳出決算書・歳入歳出事項別明細書
⑴　歳入予算
⑵　歳出予算

２）実質収支に関する調書

３）財産に関する調書
⑴　自治体の財産
⑵　公有財産
⑶　財産に関する調書（債権）の表示について
⑷　財産に関する調書（基金）について

４　決算審査における着眼点

【基本方針】
〈１〉予算審議（当初・補正）との関連から審査する。
〈２〉住民の視点から審議する。
〈３〉全体を捉えてから、細部を議論。まず、木の大きさ（全体の規模）から、枝ぶり（全体の構成）、そして、葉っぱ（各事務事業）を見ていく。

【視点】

決算審査においては、財務数値、財産、成果のそれぞれの視点から、まず分析する。

１）財務数値の視点

①　決算規模の年度比較

②　決算収支の状況の年度比較

③　予算の執行状況の分析

④　財政構造の分析

⑤　地方債および債務負担行為の状況

２）財産の状況

２－１施設等

①　まずは、財産の実在性を確認。

②　財産に関する調書の増減の内容、その妥当性はどうか。

③　遊休施設がある場合、適切な対策が検討されているか。

④　目的外使用されているものがある場合、その使用状況が妥当なものであるといえるかどうか。

⑤　不法占拠されているものがないか。

⑥　施設の管理を外部化（指定管理、包括的民間委託、業務委託）している場合、指定管理者・受託先の業務の執行状況はどうか。

⑦　施設は劣化していないか。

２－２出資団体等

①　出資団体の検証

②　自治体関与の在り方の検証

３）成果の検証

①　行政サービスの当初の目的は達成されたのか。

②　経済性、効率性の観点はどうか。

５　地方財政の用語の理解

歳入：どのように、お金が集まってくるか

地方税、地方交付税、国庫支出金、地方債

歳出：どのように、お金を使うか

目的別：総務費、民生費、衛生費、農林水産業費、土木費、教育費、公債費（借金返済）

性質別：人件費（給料）、扶助費（生保）、公債費、普通建設事業費

（道路や庁舎：単独／補助）

第２部　決算カード・財政状況資料集の理解と分析

１　地方財政の用語の復習

２　財政分析　指標解説

（序）自治体の財政規模は、どの程度か

（１）視点１　財政収支：分析の基本

・形式収支＝歳入決算額－歳出決算額　分析：赤字の場合⇒繰上充用

・実質収支＝形式収支－翌年度へ繰り越すべき財源

・実質収支比率＝実質収支額／標準財政規模×100

実質収支の水準を示す指標（経験的に３～５％程度が望ましい）

・単年度収支＝当該年度の実質収支－前年度の実質収支

赤字の場合⇒その原因が単年度限りのものなのか、恒常的な赤字につながる構造的な要因に基づくものなのかを究明

・実質単年度収支＝単年度収支＋実質的な黒字要素－実質的な赤字要素

（２）視点２　弾力性分析：どれだけ機敏に対応できるか

動脈硬化は進んでいるか

経常収支比率：

経常一般財源総額と経常経費充当一般財源等との割合

（３）視点３　歳入分析：分権の基本　財政力指数

（４）視点４　借金の状況　地方債残高比率

（５）視点５　貯金の状況　積立金比率

３　財政状況の理解のための公表資料

決算カード、財政状況一覧表、類似団体比較カード

15：50～18：00（途中休憩 10 分）

【演習】　決算審査の実践

演習内容

テキストの図表について、主に【分析の視点】を基に分析する

Ⅰ　収支健全性の分析

【分析の視点】

① 実質単年度収支の推移

② 歳入額、財政調整基金残高の推移

③ 歳出額、他の基金残高の推移

④ 単年度収支の推移

Ⅱ 弾力性の分析

【分析の視点】

① 経常収支比率の類似団体と当該団体との比較

② 経常収支比率の分母となる経常一般財源等との関連からの比較

③ 科目別の比較①：類似団体よりも規模の大きい数値

④ 科目別の比較②：大きな割合を占める科目の数値

Ⅲ 財政的ストックの視点

【分析の視点】

① 積立金現在高の比較

② 財政調整基金残高の比較

③ 減債基金残高の比較

④ その他特定目的基金残高の比較

⑤ 地方債残高の比較

18：15～

交 流 会

夕食を兼ねた立食の交流会。受講者同士の情報交換の機会を得た。

＜２日目＞ ４月 26 日（木）

９：25～10：35／10：50～12：00

【講義】 理論編 決算審査の新しいアプローチ

第３部 公会計制度改革の理解

１ 公会計改革理解のための言葉：発生主義、アカウンタビリティ

１） 発生主義の導入

認識基準〔測定の時点と認識の対象を決定する基準〕としての発生主義

２）　地方公会計改革の効果と分析の視点

住民に対する開示による効果

→透明性の向上

・連結ベースの財政状況・世代間負担の状況等を明示

・コストと住民（受益者）負担の関係を明示

・税金等の財源とその使途を明示

行政経営への活用による効果

→マネジメント力の向上、資産・債務の適切な管理

・自団体のマクロベースの目標設定・進捗管理への活用

・他団体との比較分析により今後の方向性等検討情報として活用

・施策別、事業別、施設別等へ細分化することによる行政評価等との連携

・固定資産台帳整備による公有財産管理の実効性・効率性の向上

・遊休資産の把握による資産の効果的活用

・貸付金・未収金等の台帳整備による収納事務の実効性・効率性の向上

２　貸借対照表の理解と分析の視点

貸借対照表：会計年度末における財政状況（資産保有状況と財源調達状況）を表す財務書類

３　流動資産の視点

４　固定負債の視点

13：00～15：00（途中休憩 10 分）

【講義】　実践編　行政評価等を用いた決算審査の実践

第４部　行政評価を用いた決算審査

１　行政評価の目的

①定量的評価⇒業績測定⇒非財務数値の数値化

②定性的評価⇒ロジック分析⇒妥当性・有効性・効率性の評価

２　政策体系と行政評価

行政評価の活用

⇒予算編成への活用：事務事業評価⇒さらに、主要な施策の成果報告書

⇒総合計画の進捗管理への活用⇒施策評価

３　行政評価シートの理解

４　定量評価の理解

５　定性評価の理解

＜配布資料＞

①　秩父市　平成 28 年度　一般会計歳入歳出決算書（抜粋）

②　秩父市　基本次行評価シート（障がい者福祉課関係の一部）

③　秩父市　平成 27 年度　決算状況カード

④　秩父市　平成 28 年度　決算状況カード

⑤　秩父市　平成 28 年度　財政状況資料集

⑥　秩父市の財務報告書　統一的な基準による財務書類

⑦　平成 28 年度　財政状況類似団体比較カード（秩父市の類似団体）

15：00～15：15

閉講・事務連絡

平成 30 年度　市町村議会議員研修［２日間コース］

「自治体決算の基本と実践　～行政評価を活用した決算審査～」に参加した所感

吉井敏恭

この研修は地方財政論、行政評価論、公会計論が専門の関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科　稲沢克祐（いなざわかつひろ）教授を講師に、当初は定員 60 名で募集された研修でありました。ところが 147 名の応募があったことから、定員を 100 名に拡大して開催の運びとなりました。

昼前にＪＩＡＭに到着し、昼食の後、開講・入寮オリエンテーションを受け、午後１時より講義が始まりました。

はじめに「財政民主主義」の考え方について説明を受けました。決算中心の財政マネージメント。予算審議よりも決算審査に重きを置き、十分に審査すべきである。決算審査と予算審議は関連性、連続性をもって行うべきである。この「財政民主主義」の考え方がこの研修のキーワードであります。

自治体のストックについてヒト、モノ、カネの変化があげられ、特に「モノ」（インフラ資産＝道路や橋、施設）について肝に銘じることは、施設全体を【10】とすると、工事費が【３】、その維持管理に【７】が必要であるということである。

議会による決算認定に関し主要な施策については成果報告書を活用する。財源の持続可能性（財政状況）をも確認する。

行政サービスについては当初の目的は達成されているのか。受益者負担の適正化がなされているのか注視する。

また「機会損失」と云う耳慣れない言葉について説明を受けました。これは「最善の意思決定をしないことによって、より多くの利益を得る機会を逃すことで生じる損失のこと」をいい、私の中でも多くを見過ごしているのではないかと思いました。

講師は、秩父市（埼玉県）のアドバイザーを務められている関係で、秩父市の平成 27 年度・28 年度の決算カード等を用いての講義がありました。なかでも同一規模の自治体との比較対照を容易にする「類似団体比較カード」の（存在は）利用は財政状況の判断に役立つと思いました。

「決算審査の実践」では、講師の話に納得しながら講義がすすんだはずなのに、いざ実践に至っては、理解度の低さが露呈し苦戦いたしました。よく似た用語が多く、復習の必要を痛感しました。

立食の交流会では、偶然にも私に縁のある地域（愛知県一宮市、大阪府枚方市）の議員と

同じテーブルとなり歓談いたしました。

２日目、公会計制度についての講義を受けました。予算審議で確認、さらに決算審査で予算審議時の確認について念押しの説明を受ける。

貸借対照表について、将来世代（負債）と現世代（純資産）世代の負担の均衡が図られているのか等の着眼点について説明を受けた。負債は将来世代の負担であることを再認識しました。

最後に行政評価を用いた決算審査についての講義を受けました。「行政評価」は非財務数値の数値化を行う手法で、事業毎にＰｌａｎ（計画＝目的）→Ｄｏ（実行＝実績測定）→Ｃｈｅｃｋ（評価＝妥当性・有効性・効率性など）→Ａｃｔｉｏｎ（改善）をチェックし決算審査に活用する必要を学びました。

議員としての経験も浅く、財政用語に馴染みのない私にとっては、意義のある研修でありました。特に講義において頭に残ったキーワードを『所感』の文中に取り上げました。研修の内容を復習し理解を深めて今後の活動に役立てていきたいと思います。

研修に参加できたことに感謝いたします。

平成 30 年度　市町村議会議員研修～2 日間コース
「自治体決算の基本と実践～行政評価を活用した決算審査～」を受講した所感

近藤文博

4 月 25 日（13 時～17 時）、26 日（9 時～15 時）の 2 日間にわたり表題の研修を受講しました。

講師は、関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科「稲沢克祐」教授です。全国からの 100 名の受講者と共に、西脇市議会からは高瀬、吉井、近藤の 3 名、近隣多可町議会からも 2 名が参加されていました。

講義の詳細については、研修報告書の通りですが、ポイントは①財政民主主義　②決算重視による財政マネージメント　③新たな決算審査のあり方でした。財政とは市が使う費用について、その資金を徴収しあるいは交付を受け予算を組んで配分し、実際に支出するまでの一連の流れです。

実際には予算を組み、執行するのは行政となります。そこで、正しく市民のための予算組みとなっているのか又は正しく執行し期初の目的を達成したのかどうか本来市民のコントロール下にあることが前提です。民主主義社会ではこの役割を、市民の代表である議会が委ねられています。

正に財政民主主義とはこのことを指し、改めて議会の持つ重要性を理解したところです。

決算重視による財政マネージメント、新たな決算審査のあり方についても全て財政民主主義を正しく遂行するための方策であります。決算を重視するためにはそれぞれの事業の連続性を考察し、達成度や目的の可能な限りの数値化が要であり、できるだけ評価の見える化を議会（市民）と行政で共有することが結果において将来への予算編成にも生きたマネージメントが可能であると指摘されています。

新たな決算審査では、取りも直さず予算審議をしっかりとやり、言うまでもなく予算の段階で個々の項目の数値化を徹底することが効果の検証に繋がるとも指摘、指導がありました。

今後の議員としての活動に是非活かしていきたいと痛感しております。

簡単ですが、研修所感をご報告いたします。

以上